
裏銀座：北アルプスの中核に遊ぶ

齊藤整紀

● 平成 28 年 8 月 16 日(火)～21 日(日)

● メンバー 齊藤整紀(CL)・村山隆(友人)

【はじめに】

縦走のビッグネーム「裏銀座」が残っていた。学生時代にヤマを始めた頃の愛読書『山溪』には「槍ヶ岳は北アルプスの盟主」という特集があり、折しも『孤高の人』加藤文太郎に憧れた頃でもあり、槍ヶ岳は目標であった。勿論、表銀座、裏銀座は意識していたが、時間とお金が掛かるため見送ってきた。24 年 7 月に「表」を 2 泊 3 日でやったが、友人の力量把握が甘く、厳しかった事を勘案、今回の「裏」は、小屋 3 泊を 4 泊に変え、ゆとりの計画で臨んだ。

8 月 17 日(水) 曇りのち雨

●コース

16～17 日 竹橋 22:30(毎日旅行バス)⇒3:40 七倉ダム(炊事)⇒6:30 高瀬ダム→6:40 登山口→9:50 三角点 2208m→11:30 烏帽子小屋(チェックイン) 12:30→13:30 烏帽子岳→14:20 烏帽子小屋(泊)

雨の門出、竹橋を出たバスは中央道が長野県に入った辺りから雨が止み、夜明け前の七倉山荘前はますますの天気でタクシー待ち。高瀬ダムまで、4 人 1 台 2,200 円のところ、一人 500 円にオマケ。ダムを横切り、「北アルプス裏銀座登山口」

の標識から「日本三大急登」のブナ立尾根が始まる。標高差約 1300m をカウントダウンの番号標識を見ながら均等に高度を上げ、燕岳の合戦尾根と同程度の登りを効率よく登ることができる。が、西黒尾根程の急登ではなく、また 2200m スケールの黒戸尾根や早月尾根とは比較にならない。

登山口から暫く行くと、土砂の崩落する不気味な音が連続し、ダムへ通じる沢の上流に泥が流れ落ちる光景が不気味である。

中間地点の三角点を過ぎた辺りで降雨。雨具を着ての登りになったが、5 時間弱で烏帽子小屋に到着し、疲れもあまり感じない。「3 大急登のブナ立て」の名前を警戒していたが、やや物足りない。

烏帽子小屋に宿泊のチェックインを済ませ、ザックを置いてから、雨中、烏帽子岳に向かう。燕岳に似た花崗岩砂礫と這松の径でコマクサも盛りは過ぎてはいるものの、まだ一部咲き残っている。烏帽子岳本体は岩稜の鋭利な山塊で、剣岳の練習に好適。友人も無難にこなし小屋へ戻る。烏帽子小屋は、建物は古い乾燥室が素晴らしい。雨具は別室のため、衣類等良く乾く。布団も少し大きめで、一人一枚で快適。

夕方、雨が上がり、小屋前から赤牛岳、薬師岳、三ツ岳、前烏帽子岳等の展望を楽しむ。あまり遠くまでは見渡せないが、まずは初めての展望を楽しむことができた。ヤレヤレ！

8月18日(木) 晴れのち曇りのち雨

●コース

烏帽子小屋 6:15→7:40 三ツ岳→9:30
野口五郎岳→11:30 (コルで昼食) 12:00→
12:30 東沢乗越→13:30 水晶小屋 (泊)

今朝は、昨夕以上に晴渡り、コマクサの径を歩いて三ツ岳へ上がり、烏帽子岳を振り仰ぐ。尖塔の様で異質な山容である。間近の赤牛岳が見事である。しかし7時には俄かにガスが辺りを覆い、景色を掻き消してしまった。それでも、時々、足元にはお花畑が覗け、野口五郎岳のたおやかな稜線が美しく望める。途中、真砂岳とのコルで昼食にした。バーナーでカレー饅頭を作り、フランスパンを添えた。ホシガラスやイワヒバリが飛び交う。

東沢乗越前後の岩場は雨具を着けると時間がかかり、13時半ようやく水晶小屋に到着。雨が酷いため水晶岳は明朝にして小屋にチェックイン。毎日旅行の24名はそんな中、水晶岳に登ってから三俣山荘へ向かった。我々は変更日程で助かった!

水晶小屋は赤岳の山頂下の小さな小屋で、風速70mの台風で何度も壊れ、現在5代目であるが、定員30名のため、混雑する山小屋で有名である。しかし今回は当初予想以上に布団を広げて寝られた。ただし乾燥室は、小さなスペースに雨具も持ち込まれ、全く乾かなかった。

8月19日(金) 快晴のち曇りのち雨

●コース

水晶小屋 5:30→6:35 水晶岳→7:00 水晶
小屋→8:55 鷲羽岳→10:30 三俣山荘 (昼

食) 11:15→12:10 三俣蓮華岳→13:30
双六岳→14:30 双六小屋 (泊)

朝4時に小屋前に出たら、雨が上がり、槍・穂高のシルエットが浮かんだ。5時頃には絶景と朝日を求めて多くが小屋から出てきた。頭上に水晶、その奥に剣・立山、そして鹿島槍。東には歩いてきた裏銀座コース、表銀座コース、槍・穂高連峰。立派な笠ヶ岳も。昨日までにない絶景である。

朝食後、昨日保留の水晶岳に登る。地区NO.1からの展望は素晴らしいが、前回、3組に出会った雷鳥が、今回は一羽もいないのは寂しい。

7時過ぎ、鷲羽岳へ向かう途中、またしてもガスが張り出してきた。お花畑を過ぎ、岩苔乗越手前の分岐で、昨夜親しく話した小学生連れのママさんと別れ、ワレモ、鷲羽へ。黒部の源流を抱える鷲羽岳は南側の下りが上りに比べ、長く、意外に険しい。

昼食は、水が豊富でベンチ、テーブルもある三俣山荘でした。チキンラーメンと焼いたフランスパンに蜂蜜を付け、それに蜂蜜入り紅茶である。山では定番か!?

ガスは依然晴れず、双六岳から台地の先に臨むはずの槍の雄姿も見られなかった。

双六小屋は立地に恵まれ快適。今日は、雨に遭わなかったものの、昨日の雨具を干し、衣類は水洗いして乾燥室に干した。前回泊まった次の年に建て増した新しい設備で、トイレも洋式・水洗で気持ちが良い。今回の山で初めて生ビールに有り付いた。

8月20日(土) 快晴のち曇りのち雨

●コース

双六小屋 5:40→6:15~30 楡沢(モミサワ)岳
→9:25 千丈乗越→10:45 槍ヶ岳山荘→槍
ヶ岳 11:40→12:35 ヒュッテ大槍(泊)

朝は快晴。双六小屋は谷地にあるが楡沢岳は展望台であり、気持ちが良い。山頂はこの旅一番の展望である。槍が目の前で穂高連峰は西穂高までリアルに分かる。ジャンダルム、ロバの耳も。笠、黒部五郎も大きい。更に南に乗鞍岳、御嶽山が控え、白山や立山、劔岳も。しかも裏銀座ルートが野口五郎岳を中心に見事な稜線を横たえ存在感がある。

7時過ぎ、又しても富山側から雲が上がり、8時に槍に雲がかかり、西鎌尾根の岩稜が終わって、9時には雨になった。千丈乗越で本格的な雨になり、雨具を着けての登りとなった。途中、盛んに雷鳥は鳴くものの明確な姿は捉えることが出来なかった。このルートも、雨の中ながら、意外に楽に稜線を登りつめることができた。

さすがに、雨では槍ヶ岳も人が少ない。4度目で初めて雨具を着ての登頂となった。時分時ながら、食事を我慢してヒュッテ大槍に向かったが、岩稜は手強かった。

西正子さんお勧めのヒュッテ大槍は綺麗でオシャレである。乾燥室はしっかりして、ザックや用具の置き場も余裕がある。寝室は3畳向かい合いに2段、1人1畳。トイレは洋式で、洗面所も建物内で快適。夕食には白ワイン付。500円のインスタント飲物飲み放題は4年前立寄った時も利用したが手軽で便利。プレモル生ビールは黒もあり900円で美味。

8月21日(日) 晴れ時々曇り

●コース

ヒュッテ大槍 6:00→7:30 天狗原分岐→
8:40 槍沢ロッジ→10:10 横尾山荘(昼食)
10:40→12:30 明神館→13:20 河童橋・アルペンH(入浴) 14:10→14:20 上高地BT(反省会) 16:00(バス)⇒21:00 新宿

昨夜の雨が嘘のような夜明けで、飲み放題のコーヒー片手に、槍の登山客の描く灯りのラインと、富士山、南ア連峰の朝焼けを楽しんだ。常念、八ツ、前穂が素晴らしい。

この後は、お風呂！ひたすら下山を急ぎ、気持ちもそぞろで、2度転倒した。

ひとまず、横尾山荘のベンチで最後の昼食を作る。ミニトマトは相変わらず美味しいが、フランスパンは一部カビが出ていた。

かなりスピードアップして、アルペンホテルのお風呂に急いだ。600円の入浴はフロントでは混んでいると言われたが、終了時間が迫っていたお蔭で、空いていた。バスステーションの2階食堂でまず反省会をやり、渋滞で遅くなった後も、いつもの様に葛西で反省会をやった。

【終わりに】

ヤマで4泊は、7年前のテント泊を交えた雲ノ平以来である。裏銀座コースを4泊とは随分、贅沢と思ったが、早朝快晴に始まり、曇り、やがて雨と変化する毎日であった事を思えば、結果的に良かったと思う。友人も4年前の「表」の頃と比べると別人の様に力が付き立派なパートナーに成長した。様々な努力に敬意を表する。(了)